

# 開院45周年記念号

2024.4.10発行



〒870-0820

大分市西大道町2丁目1番20号

TEL: 097-545-1717

永富脳神経外科病院

24時間365日救急対応

ご自由にお持ちください

## 「“脳”を救い“未来”を守る」

開院から45年以上にわたる実績と豊富な経験を生かし、脳卒中専門医8名を含む15名の医師とのチーム医療で“脳”を救い、継続したリハビリを通して、元の生活に戻れるように支援し、患者さんの“未来”を守っていきます。



脳卒中センター



ガンマナイフ治療



15名の医師による全症例カンファレンス



超早期リハビリ

photonino



## 開院 45 周年記念挨拶

理事長 永富 裕文

医療法人健裕会永富脳神経外科病院は、今年 45 周年を迎えました。私は、大分県立病院脳神経外科（県下初）初代部長を経て、1978 年 医院 19 床、職員 15 名で開業致しました。当時、脳卒中は急性期治療が終了した後にリハビリを開始する時代でしたが、発症早期のリハビリは後遺症の軽減、症状の回復に期待できることから、全国初の超早期リハビリ（入院当日又は翌日から）を開始しました。その後、九州初の頭部専用 CT 導入、8 年後に現在の病院（当時 98 床、現在 153 床、医師 15 名、職員 273 名）となりました。MRI 導入（県下初）、レントゲンフィルムデジタル化、電子カルテ化などを行い、急性期脳梗塞の患者数が全国 3 位となりました。そして脳ドック、経食道・心エコー、t P A 治療、脳血栓回収法など、九州初の顔面けいれん手術、内視鏡手術、1999 年 ガンマナイフ導入（県下初）、脳血管内治療（県下初）を始めました。2003 年には、併設施設「老人保健施設サンテラスながとみ」を開所しました。

開業当初より病院理念「人間愛と生命の尊厳」を理念として掲げ、思いやりと愛情をもち、生命の尊さを厳粛に受け止め、高水準の医療機器を導入し、最先端の医学に接することを心がけ、高度最新医療を目指してきました。2015 年には、九州大学卒の医学博士 湧川佳幸医師が病院長として就任しました。彼は「医師たちが選ぶ名医」として 2016-2017,2020-2021,2022-2023 に「Best Doctors」に認定され、現在日本脳卒中協会大分県支部長も勤めています。

2022 年に更新したレクセルガンマナイフ Icon は、開頭せずに脳疾患を治療する脳内疾患専用定位放射線治療器で、脳深部の手術困難な部位にも威力を発揮します。また、患者様の負担をより軽減したマスク固定による分割治療が可能になり、大きな腫瘍も治療できるようになりました。2023 年には CT 320 列を導入、眼科を開設し、医師 15 名とのチーム医療により高度な医療を提供しております。

これからも高度最新医療を心がけ、より高みを目指して発展していきたいと思っております。

## 開院 45 周年記念挨拶

病院長 湧川 佳幸

このたび、当院は開設 45 周年を迎えることができました。この喜ばしい 45 周年を迎えることができましたのは、何より当院を信頼して受診していただいている患者さんと当院を長く支え続けてくれた職員、地域の医療機関の先生方などの大きなご支援とご尽力によるものであり、心より深く感謝申し上げます。

昭和 53 年永富裕文理事長が脳神経外科専門病院として当院を開き、そして、脳神経外科診療は頭部 CT・MR 検査による診断技術の向上、ガンマナイフ治療、脳梗塞治療における血栓溶解療法、脳血管内治療の登場や抗血栓治療の進歩により大きく変わってきました。当院でも標準的かつ最適な脳卒中医療の実践を目指して、九州でもいち早く頭部 CT・MRI などの検査機器を導入し、1999 年からは脳血管内治療センター・ガンマナイフセンターを立ち上げ、他の地域に遅れることなく脳神経外科診療を継続してまいりました。私は、福岡市内の病院で脳卒中診療を行う内科医（脳血管内科医）として急性期診療、再発予防診療にたずさわって、2015 年 4 月から病院長として赴任しました。脳神経疾患は脳卒中を含めて外科治療を必要としないケースも多く、内科医が脳卒中・脳神経疾患診療に加わることで、より厚みが増した医療と予防の提供ができる脳卒中・脳神経センターを目指しています。また、これまで培ってきた長年にわたる実績と経験を活かし、ハイレベルな脳神経領域の専門的知識と能力をもつ医療従事者の育成を目標に掲げ、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

また、患者さんにとって、病院に入院していた時間よりも退院後に生活していく時間が著しく長いはずですが、とくに脳卒中患者さんには、急性期治療後の安全な再発予防治療が行われること、その知識を学ぶことが大切になります。これまでの実践してきた標準的かつ最適な脳卒中医療に加えて予防医療を取り入れ、より安全で安心できる医療の提供を目指し、常に脳卒中医療の先端を進んでいきたいと思っております。

これからも、理事長を中心に職員、地域の医療機関の先生方と共に脳卒中診療をはじめとする脳神経外科領域の救急病院として地域医療へ役割を尽くしてまいりたいと思っております。今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 45年のあゆみ

1978

- ・永富脳神経外科医院開院（県下初）
- ・超早期リハビリテーション開始（本邦草分け）
- ・医院開業 病床数 19床



1979

- ・頭部専用 CT.日立（九州1号）



1986

- ・新築開院、現在地に移転（98床）



祝 新築開院 永富脳神経外科病院 昭和61年12月1日

1999

- ・レクセルガンマナイフ導入（県下初）



2007

- ・日本病院脳神経外科学会総会を会長【理事長】として別府で開催



2011

- ・東日本大震災 3.11.に救急車寄贈、災害ボランティアで石井圭亮医師（DMAT 隊員）、薬剤師 3名派遣





# 45年のあゆみ

## 2012

・脳梗塞血栓回収療法開始（県下初）

## 2015

・院長退任 永富裕文（理事長）→院長就任 湧川佳幸

## 2016

・湧川院長ベストドクターズ認定（2016～2017、2020～2021、2022～2023）



## 2019

・日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定（現在まで）

## 2021

・MRI 3T 新型機導入

## 2022

・レクセルガンマナイフ Icon（マスク型ガンマナイフ）導入



## 2023

・CT（Canon 製 Aquilion ONE 320 列 ADCT）導入



## 2023

・眼科外来開設

## 2024

・現在 153 床、医師 15 名、職員 273 名

# 各部署より～45周年をむかえて～

## 医局 堀雄三 (脳血管内治療センター長・放射線科部長)

大分県内で45年間にわたり脳卒中診療をリードし、患者様の命を救うために尽力されてきた皆様に、深く敬意を表します。私は放射線科医及び脳血管内治療医として2001年、永富脳神経外科院に赴任してから23年が経ちました。当院は常に最先端の医療機器導入と最高の医療技術を追求し、患者様一人ひとりに寄り添った医療を提供しています。私も医師として、当院で脳卒中の診断と治療に貢献できることを誇りに思っています。これからも当院が大分県内の皆様の健康と安心を支える礎となり、更なる発展を遂げることを願っています。

## 看護部 梶原 玉美

私が入社したのは病院が現在の場所に移転して間もない時でした。重症患者が多く、救急の受け入れ、手術等あわただしく勤務したことを今でも鮮明に覚えています。当時の方々とその時々にあった病棟編成、GKの立ち上げ、人材の育成等試行錯誤しながら作り上げてきました。そして救命救急、急性期～回復期、維持期と一貫したチーム医療を学び、多くの看護経験を積むことのできる病院となりました。また当院看護師の基本方針である「あきらめない看護」を私はこれまで実践し、看護に限界はないことや、「今日もいい看護ができた」という喜び、そして看護のやりがいなど、多くのことを学ぶことができました。長く務められたのも皆さんのおかげだと感謝しております。

## リハビリ部 田代 祐治

開院45周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。理学療法士という仕事から患者さんやそのご家族との会話、また症状の事から人生のことまで、多く学んでいます。以前、一緒にリハビリをした患者さんの顔がふと浮かび、懐かしむこともあります。紙カルテから電子カルテへ、ロボットスーツ、リハビリカンファレンスの活用、リハビリ評価のルーチン化、ポツリヌス治療への参画、福祉用具（リフト、車椅子やポジショニングのクッション、スライディングボード等）の導入等、挙げきれないほどのリハビリ部の発展とともに日々、私も成長させていただいております。また、津波の防災訓練も印象的でした。1階から3階まで階段を利用し担架で人を運び、緊迫した空気のなか汗だくになったことを覚えています。今後も、病院のさらなる発展を祈念しております。

## 放射線部 安藤 真次

開院45周年おめでとうございます。当院は救命救急を是として最新医療を行ってきました。私も入社以来、放射線業務に携わってきました。私が入社した昭和60年は、まだ国道を挟んだ前にありました。今の病院がある場所は空地で、永富整形とソフトボールの試合をしたりしていました。当時は51床でしたが、脳外科がまだ他病院にあまりなく、救急車が全県より来ていて忙しく、CTは30分以上時間を要し大変でした。その後今の場所に移転し、移転の際は救急車などを使って患者様を運び、旧病院でも診療を続けながら職員全員で転院作業をしました。大変な1日でした。それ以来最新機器を導入し増築して現在の病院の形になりました。これからも微力ながら病院の発展に貢献していきたいと思っています。

## 栄養部 小野 淑子

この度は開院45周年おめでとうございます。私は35年前に当院に入職させていただきました。当時はまだ119床の病院でしたが救急で来られる手術患者も多く、スタッフ一同とても忙しかった事を覚えています。今では予防医学が発達し重症になる前に外来に訪れる方が増えているように感じています。サントスの開所の時には5年間立ち上げスタッフとして介護の現場に立ち会わせてもらい大変さにも触れさせてもらいました。昨今ではアレルギーのある方や嗜好による患者様への個人対応その他嚥下状態に対する個別対応等、栄養課ではできる限り対応を行っています。「治療効果を高めると共に、個々のニーズに合った食事の提供を行います」という理念のもと、今後も患者様に喜んでいただける食事の提供を行っていききたいと思います。この度は本当におめでとうございました。

## 医事課 安部 操

開院45周年おめでとうございます。45年前、大分県下初の脳神経外科専門病院の開院は大きな話題となったものです。私は、開院間もない頃に右も左も分からないまま医事課スタッフとして入職させていただきました。今は電子カルテに電子請求が当然で、開院当初と比べると本当に便利な時代になったものだとありがたく感じます。今も昔馴染みの十数年以上通院されている患者様がいらっしゃいます。脳血管疾患後であっても、長くお元気で過ごされている様子を見ると、私も医事課スタッフとして脳の健康を守る当院の役割の一端を担えているのだと嬉しく感じます。これからも一職員として、できることを精一杯尽くしていきたいと思っています。

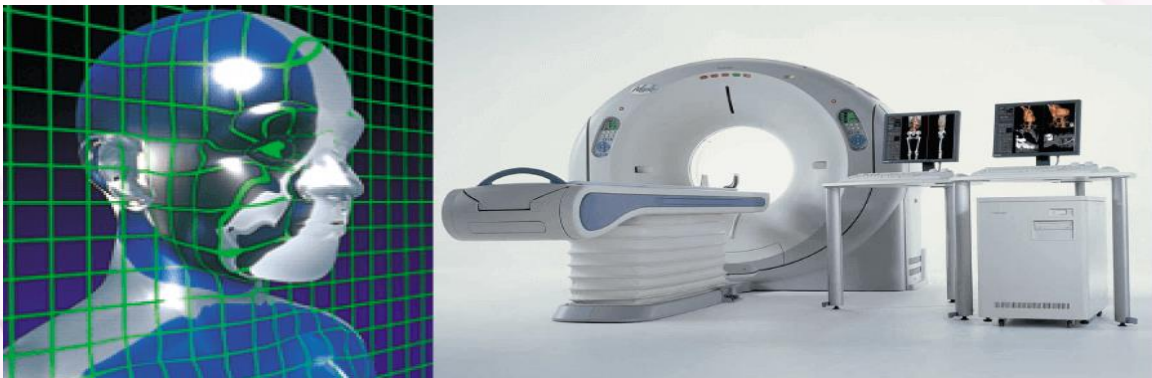


## ～脳ドッグのご案内～

### 脳は最も大切な私自身です

日本人の主な死亡原因であるガン・脳卒中・心臓病は三大成人病と言われています。脳卒中は働き盛りの人が突然倒れる。物忘れがひどくなって痴呆になる。寝たきり老人になってしまうなど非常に怖い病気です。

脳卒中には、脳の血管が詰まる脳梗塞、血管から出血する脳出血、血管にできたコブ（脳動脈瘤）が破れるくも膜下出血などがあります。他の脳疾患には脳腫瘍・パーキンソン病・老人痴呆などがあります。これらの病気を早く発見して治療し、また、予防することが大切です。



### ～永富脳神経外科の「脳ドッグ」

脳神経外科・内科の専門医として、永富脳神経外科病院は早くから“脳”の最先端に取り組んできました。

永富脳神経外科病院では、3T MRIを導入し、造影剤などを使用せずに脳の血管形状（極々小さな瘤）等を撮影可能になり、くも膜下出血の原因である脳動脈瘤の早期発見に役立っています。最新鋭の医療機器、検査機器の充実はもとより、高い医療技術を持った専門の医師やスタッフが豊富に揃っている点で、当院は常に高い評価を受けてきました。

## ☆脳ドッグの内容☆

- ・ 問診
- ・ 診察
- ・ MR 検査（頭部MRI・頭頸部MRA）
- ・ 胸部X線検査
- ・ 頸部血管エコー
- ・ 心電図測定
- ・ 血圧測定
- ・ 血液、尿検査
- ・ もの忘れ検査など

## ☆検査結果の報告と指導☆

当日、検査終了後に脳神経外科・脳卒中専門医から結果の報告と指導を行います。

## ☆脳ドッグの受診費用☆

当院所定の脳ドッグ検査費用は45,000円です。

## ☆受診の申し込み方法☆

医事課にて予約受付いたします。また電話でも受付いたします。

☎097-545-1717 医事課



## 眼科外来のご案内



### 診療案内

眼科初診 初めて受診される方はご希望の受診日を電話でご予約ください。

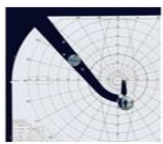
☎ : 097-545-1717

救急対応 当院は365日24時間体制の救急病院です。診療時間外の緊急CT/MRI検査も対応いたします。

### 眼科診療

診療時間	月	火	水	木	金
9:00 - 12:00	●	手術	●	-	●
14:00 - 17:00	●		●	-	

☆事前予約が必要になります



Nagatomi  
Neurosurgical Hospital

神経眼科 斜視手術

小児眼科 眼科一般

大木 玲子

石井由佳

日本眼科学会認定眼科専門医

ご挨拶

### 神経と斜視と、小児の眼

当院では、脳神経外科医・内科医・放射線治療医・救急医が集結し、専門的なチーム医療を行っております。脳神経診療に特化した環境のもと、2023年に「神経眼科外来」をスタートいたしました。視力低下や複視などの眼症状から重大な全身疾患が見つかることがあります。わずかな徴候も見逃すことなく、的確な頭部画像検査を行いながら早期診断に努めていきたいと思っております。

また、「小児眼科」や様々なタイプの「斜視手術」も専門分野としております。小さなお子さまから脳疾患後のお身体の不自由な方まで、皆さまに安心していただける眼科外来をスタッフ一同めざしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

眼科部長 大木玲子